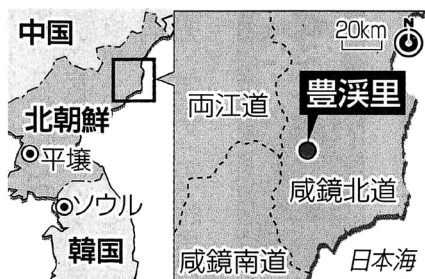


北朝鮮
核実験

暴挙を糾弾

制裁の厳格実施と対話再開を

北朝鮮は9日、5回目となる核実験を強行しました。今年に入って2回目という異常なペース。累次の国連安保理決議などに違反する蛮行であり、国際社会による厳しい非難、北朝鮮の一層の孤立化は避けられません。



志位委員長が談話

日本共産党の志位和夫委員長は9日、次の談話を発表しました。

一、北朝鮮は、本日、核実験を強行した。北朝鮮による核実験の強行は5回目であり、この間繰り返された弾道ミサイル発射とともに、世界の平和と安定にとっての重大な脅威であり、北朝鮮の核・ミサイル開発の放棄を求めた累次の国連安保理決議、6カ国協議の共同声明、日朝平壤宣言に違反する暴挙である。

日本共産党は、この無法な暴挙をきびしく糾弾する。

一、3月3日に全会一致で採択された国連安保理決議は、北朝鮮の核実験と弾道ミサイル発射を「最も強い言葉で非難」し、制裁措置の強化を決定するとともに、「6カ国協議への支持を再確認し、その再開を呼びかけ、

2005年9月の共同声明での誓約への支持を再表明する」とのべている。

核・ミサイル開発を放棄させるため、北朝鮮を6カ国協議の対話のテーブルにつかせることは、いよいよ急務である。

そのために、国際社会が一致結束して、制裁措置の全面的で厳格な実施とその強化を含め、政治的・外交的努力を抜本的に強めることを求める。

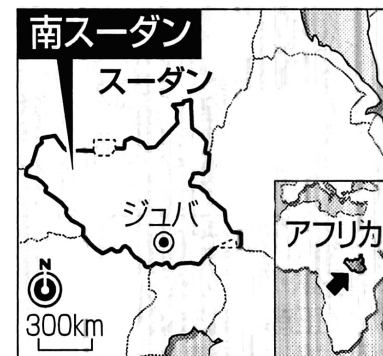
一、核武装強化の道を進むことは、いよいよ国際的孤立を深め、北朝鮮自身にとっても未来のない道であることを、強く指摘するものである。

日本共産党

戦争法 運用段階に

「殺し、殺される」危険が

安倍政権は、安保法制＝戦争法で拡大された自衛隊の新たな任務の全面的な実行に向け、自衛隊の訓練開始に踏み切りました。戦争法は、実際に運用する危険な新段階に入りました。



自衛隊、内戦の南スーダンへ

新たな任務は、自衛隊から離れた場所で襲撃されている他国軍への加勢・支援（「駆けつけ警護」）や他国軍と一緒に宿営地を守る「宿営地共同防護」など。自己防衛のためだけだった武器使用は「任務遂行」まで拡大されます。

11月にも派遣へ

新任務が想定されるのは南スーダンPKO（国連平和維持活動）。11月にも派遣予定です。現地は事実上の内戦状態。南スーダン派遣で新任



米軍普天間基地で新しい防空装備を米海兵隊に披露する自衛隊員

日本共産党

務が付与・実行されれば、自衛隊員が戦後初めて「殺し、殺される」事態が起こりかねません。

憲法9条を破壊する戦争法の発動を許さず、廃止へ声を上げましょう。

近畿民報

2016年9月 No.4 (第245号)
発行/日本共産党国会議員団
近畿ブロック事務所

〒537-0025 大阪市東成区中道1-10-10ホクシンビル102号
Tel.06 (6975) 9111 Fax.06 (6975) 9115
Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

※日本共産党は以上の見解を
発表しました。